

第2回 北杜市有機農業推進検討会 会議録

1. 開催日時 令和4年8月31日（水）午後4時から
2. 開催場所 北杜市役所 西会議室
3. 出席委員 畑山貴宏、石川宏治、高瀬弘樹、小池英幸、中村和希、草野香寿恵、瀬戸義和、中澤滋芳、中山和彦、福田和久
4. 事務局 産業観光部 商工・食農課 食育・地産地消担当 日向重貴、内藤光、上野亜弥
5. 会議録署名 小池英幸委員、中村和希委員
6. 公開・非公開の別 公開
7. 傍聴人 0人

1. 開会

2. 会長挨拶（畑山会長）

3. 議事（議長 畑山会長）

(1) 「各事業の現在の進捗状況」について事務局より説明

委員	地域未利用バイオマス会議の委員構成はどのような方か。
事務局	農業者や包括連携協定を締結している「土づくり」に精通した企業など、市内の未利用バイオマスを活用した堆肥づくりを進めるに当たり、関係する分野の皆様に依頼をしたいと考えている。
委員	地域バイオマス先進地視察は、バイオマス会議の委員が視察するのか。
事務局	地域バイオマスの堆肥化は、専門的な分野であることから、視察は、バイオマス会議の委員にお願いしたいと考えている。
委員	地域バイオマスの堆肥は、有機農業者のみが利用するのか、その他の農業者は利用できないのか。
事務局	有機農業に関わらず、希望する皆様には利用していただきたいと考えている。
委員	店舗へのポップの設置について、現在、どのくらいの店舗数を想定しているのか。
事務局	現在、市内外の5店舗に依頼して協力をいただけることとなっている。

(2) 「今後のスケジュール」について事務局より説明

事務局	有機農業の先進地視察先と時期について、委員の皆様のお意見を伺いたい。
-----	------------------------------------

なお、時期については、有機農業実施計画の策定の都合上、できれば11月末頃をお願いしたい。

委員 有機農業を盛り上げるために、生産者が団体を作り、地域ぐるみで取組を進めている「岐阜県白川町」や、千葉県内の多くの市町村が集まった「千葉県有機農業推進協議会」などが良いのでは。

事務局 それでは、時期は11月末頃で、場所については提案をいただいた2箇所の中で検討を進める。

委員 食育用冊子は、どのような活用を考えているか。

事務局 保育園、小中学校の園児、児童及び生徒を対象に、配布するだけでなく、保育園や学校の協力をいただく中で、給食の時間に併せて、自分が食べている給食の食材の生産過程を学ぶために活用していただきたいと考えている。

委員 冊子はどのような内容を考えているか。

事務局 まず、有機農業とはどのような農業なのかを、分かりやすく漫画で伝えられるようにしたいと考えている。
色々と詰め込まずシンプルな内容にしたい。
素案を作り、保育園や学校にも確認をいただく予定である。

委員 保育園や学校だけでなく、市内で食育の活動を行っている団体等でも活用できるようにしたほうが良いのでは。

事務局 本市の有機農業の取組を広く知っていただくためには効果があると考えるので、幅広い活用を検討していきたい。

委員 学校給食への有機農産物の導入に当たり、品目や量はどの程度を考えているか。

事務局 有機農業により作られた「米」、「野菜」の導入を考えている。
野菜に関してはこれまでも可能な限り導入を進めている。
しかし、今後、更に導入を拡大するためには課題も生じている。

例えば、給食センター（調理側）においては、農産物の形が不揃いであると調理時間がかかるなどの課題がある。

こうした課題を少しずつ解決する中で、進めていく必要があると考えている。

委員

学校給食への有機野菜の導入については課題があるとのことであるが、解決に向けてどのように対応していくのか。

課題で終わってしまっただけでは困るので、生産者を交えて積極的に進める方が良いのでは。

事務局

頂いた御意見のとおり、有機農業に携わる皆様（生産者側）の課題も確認する中で、給食センター（調理側）と協議を行い、それぞれの持つ課題を解決していきたい。

市としては、調整役として円滑に進めていきたい。

また、生産者側の御意見を伺うに当たっては、個々ではなく有機農業者の皆様による組織化の体制を構築していただき、統一的な意見を聞いていきたいと考えている。

委員

どのような組織づくりを考えているのか。

事務局

有機農業に携わる皆様がすべて参加できる組織作りを目指すことが理想であるが、一気に進めることは難しいと考えている。

このため、まずは小さい組織からスタートし、徐々にその輪を大きくしていくことが良いのではないかと考えている。

委員

給食の調理現場では、どうしてもスーパーで売っているような規格や品質を求めてしまう面もあると思うが、有機農業で生産された農産物は、なかなかそのようなものばかりではないのが現実である。

無理やりに導入して一時的に有機農産物の割合が増えたとしても継続していかないのではないかと思う。

調理現場の皆様の意見を聞きとることも必要ではないか。

事務局

調理現場では時間などの制約がある中で作らなければならない面もある。このため、どこまで歩み寄れるかを話し合っていく必要があると考える。

生産現場、調理現場それぞれの意見を聞く中で、課題解決に向け

て協議を行っていききたい。

委員 給食だけではなく、一般の消費者に対しても有機農業を理解していただくことが必要だと思う。化学肥料や農薬を使用しないで生産するため、規格や品質に差が出てしまうことを、しっかりと周知することが大切である。これから制作する動画などに入れ込むことができれば効果的では。

事務局 動画は時間が限られているため、入れ込むことが難しいと考える。このため、市のホームページや動画を放映する店舗にチラシを設置するなどを検討していききたい。

委員 有機農業を推進するためには、給食への導入に当たっての課題、流通や有機農業への理解など様々なやるべきことがあると思うが、まずは、総体的に「北杜市は有機農業を推進しています」という面を周知することが大事である。

現段階で、有機農業の推進を図るため、「動画を制作していきます」や「給食への導入拡大を図っていきます」などのビジョンを、市の広報紙やSNSなどで発信するほうが良いと思う。

事務局 頂いた御意見のとおり発信について検討していききたい。

委員 生産技術向上に向けた取組について、米や野菜など生産する農作物ごとに分かれた内容の講習会を開催するのか。

事務局 現時点で考えている内容は、米や野菜などピンポイントの技術講習会ではなく、例えば今後、有機農業を推進するために生産者は何をすればよいのかなど、もう少し広い視点での講習会を想定している。

委員 農業者の意見交換会は、ぜひ行ったほうが良い。動画の制作や商談会など、今後実施する様々な取組は、生産者の意見を取り入れた内容にして欲しい。

事務局 頂いた御意見のとおり、しっかりと農業者の皆様のニーズを確認する中で、取組を進めていききたい。

委員	有機農業の周知拡大を図るためには、市内の飲食店や観光事業者などにも協力してもらおうほうが効果的では。
事務局	現段階では、試験的に、消費者の皆様が多く訪れるスーパーなどの店舗にポップの設置や動画の放映について依頼をさせていただいている。 その効果を確認する中で、今後検討していきたい。
委員	ポップは、どのようなものを作成するのか。イメージを教えてください。
事務局	有機農業に取り組む農業者の紹介や、生産された農産物を紹介するものではなく、「北杜市は有機農業を応援しています」というようなイメージの内容で作成したいと考えている。 販売されている市産農産物の総体的なイメージアップにつながるような内容にしたい。
委員	ポップや食育用冊子などは、案が出来たところで、ぜひ内容を見させていただきたい。
事務局	案が出来たところで、委員の皆様のお確認をぜひお願いしたい。
議長	その他、意見がないようであれば本日の会議は終了としたいがよろしいか。
委員	異議なし。

午後5時終了